

港区戦争史跡めぐり

見慣れた港区の光景。
でも、少し目を凝らしたり、
耳を澄ましたりしてみると、
空襲で燃えさかる炎や、
訓練する兵士たちの号令を
想像することができのかもしれない。
慶應義塾の都倉先生と一緒に
戦争の痕跡を歩いてみました。



東京山の手大空襲の記憶が刻まれた道

A 表参道

表参道や青山通りの一帯が火の海となったのが、昭和20（1945）年5月24・25日の東京山の手大空襲です。来襲したB29は約500機、投下された焼夷弾は約3000トン以上と、3月10日の東京（下町）大空襲よりも規模は大きく、たくさんの人々が逃げ場を失って火に巻かれました。

区政六十周年記念碑「和をのぞむ」

区政60周年を機に、平和を願って建立された記念碑。毎年5月25日には、追悼の献花が行われています。また、近くの善光寺には、犠牲者が多かった銀行前の土を移して供養塔が設けられ、やはり同日に法要が営まれています。（碑文はP.29を参照）

■北青山3-6-12



空襲のあと、表参道や青山通り沿いには、いたるところに遺体が並べられ、行方がわからない身内を探す人たちが、一体一体を確かめて回っていました。それらの遺体は、逃げる姿のままだったり、座り込んで拜むような姿だったり、幼児を胸に抱いたままの姿だったりしたそうです。



2基の大石灯籠

待ち合わせ場所として知られる、参道の入り口の石灯籠の台座が、ところどころ欠けているのは、爆撃によるもの。黒ずみは、焼けた人の脂によるものといわれています。

■北青山3-5（表参道交差点付近）

周辺はすべて焼け野原になり、このあたりに立つと、東に国会議事堂、西には富士山の姿が、遮るものなく見えたそうです。

山陽堂書店

今も続く老舗書店。周辺で数少ないコンクリート造りだった建物へ、100名近い人たちが逃げ込みました。もともと豆腐屋があった場所で、地下に井戸があったため、そこから水をバケツリレーで運び、建物の内側から消火したそうです。

■北青山3-5-22



地上3階・地下1階の建物は、関東大震災の教訓を踏まえて、ドアを重い鉄製にし、窓にも熱に強いガラスを用いるなど、火災への備えを意識して作られ、その耐火構造が、焼夷弾による火災から建物を守ったようです。空襲の高熱で熱くなった窓ガラスが、急に冷やすことで割れてしまわないよう、水を口に含み、霧のようにしてガラスに吹かけたそうです。

表参道ケヤキ並木

参道の両側に植えられていた200本のケヤキも、焼夷弾によって燃え上がり、13本を残して消失しました。現在の並木のほとんどは、戦後に若木が植え直され育ったものです。



みずほ銀行青山支店 （旧安田銀行青山支店）

空襲の夜、堅牢な銀行の建物へ逃げ込もうとした多くの人たちが、中へ入れず亡くなりました。壁沿いに遺体がうずたかく積み上がったのは、大規模な火災によって起きる竜巻のような強風のためともいわれています。

■北青山3-5-27

翌日、黒く焦げた遺体を、鷹口（とびくち：木の柄にくちばしのような金具のついた道具）で壁から一体ずつ引きはがすたびに、ポツと火が燃え上がったそうです。それらの遺体は、スコップで投げ入れるようにトラックへ積み込まれ、運ばれていったといわれています。



戦争で失ったものを知ると
よく知る街も
景色の見え方が
変わってきます



東京（下町）大空襲で亡くなったのは約10万人、東京山の手大空襲では約3600人と、爆撃の規模に比べ、死者の数が下回ったのは、疎開が進み、すでに人口が減っていたことや、下町での空襲の様子がすでに伝わっていて、消火よりも避難を優先することが多かったためといわれています。

自ら学びを深め、
周りの人を
巻き込んでいけば
平和活動に
つながるのかも



B

青山 赤坂 六本木

当時の港区には日本軍の重要な施設が各所にありました。なかでも、麻布区・赤坂区には4つの歩兵連隊と司令部や、陸軍大学校が置かれ重要施設が集中する陸軍の街でした。戦時中はそれらを標的とする激しい攻撃を受けました。戦後、軍の広大な跡地はGHQに接収されましたが、現在もまだ米軍基地として利用されているところもあります。



昭和37（1962）年に建立された「近衛歩兵第三連隊跡」の碑は、再開発に伴って、ゆかりのイチョウとともに、赤坂パークビルにある公園へ移設されています。

赤坂サカス

近衛歩兵第三連隊の跡地

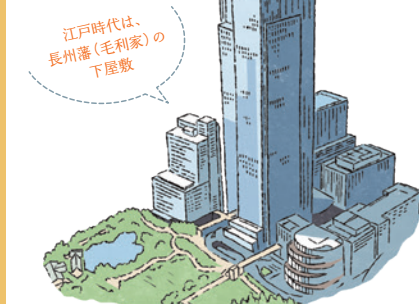
戦後、民間に払い下げられ、〈ラジオ東京〉が昭和30（1955）年にテレビ放送を開始しています。その後、平成6（1994）年にTBS放送センターが、平成20（2008）年には再開発による複合施設〈赤坂サカス〉がオープンしました。

■赤坂5-3-6



東京ミッドタウン

歩兵第一連隊の跡地



戦後GHQに接収されたのち日本へ返還され、昭和37（1962）年に、陸上自衛隊麹町駐屯地となり、防衛庁（現「防衛省」）の本庁舎も置かれます。そして、防衛庁が市ヶ谷へ移転したのち、平成19（2007）年に複合施設〈東京ミッドタウン〉がオープンしました。

■赤坂9-7-1



〈歩一〉と通称される歩兵第一連隊は、地元出身者による「郷土連隊」として知られている、港区と関係の深い部隊ですね。隣接する歩兵第三連隊とともに、二・二六事件に参加した部隊の一つです。

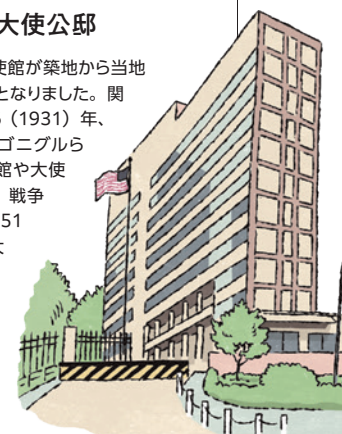


麹町公園 ●東京ミッドタウンに隣接する、区立の都市公園です。歩兵第一連隊の敷地だったところで、池の端には歩兵第一連隊を記念する「歩一の跡」の碑がたたずんでいます。GHQの接収後に日本へ返還され、都立公園に、のちに区立公園となり、平成19年のミッドタウン開発とともに再整備されました。

アメリカ大使館／大使公邸

明治23（1890）年、公使館が築地から当地向へ移転し、のちに大使館となりました。関東大震災を経て、昭和6（1931）年、建築家のレーモンドやマゴニグルらが設計した、白亜の大使館や大使公邸などが建てられます。戦争による閉鎖をはさみ、昭和51（1976）年、現在の新大使館ビルに建て替えられました。

■赤坂1-10-5



かつての大使館と大使公邸 ●背後に写る公邸は現存し、平成13（2001）年には、アメリカ本土の重要文化財に指定されています。

青山霊園



明治7（1874）年に、日本最初の公営墓地の一つとして開設された、10万人以上が眠る霊園で、外国人墓地もあり、歴史上著名な人も多く埋葬されています。

■南青山2-32-2



青山霊園に残る戦争の跡 ●戦時の金属供出によって失われた、柵や扉の痕跡も残っています。たとえば、大養毅の墓所は門柱だけが残り、そこにあったと思われる門はなくなっています。また、北里柴三郎の墓所には、石柱に柵が設けられていた痕跡が残っています。

赤坂プレスセンター

歩兵第三連隊の兵舎跡地

戦後GHQによって接収され現在まで使用が続いている、在日米軍の基地で、ヘリポート等が設置されています。区内の基地には、ほかに南麻布の〈ニューサンノー米軍センター〉があります。

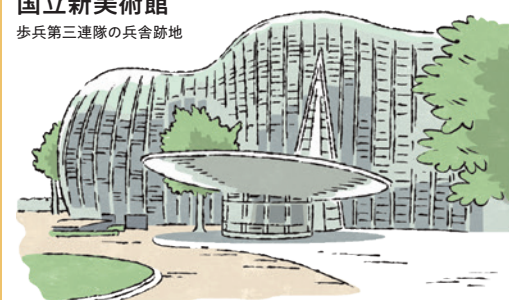
■六本木7-23-17



ヘリコプターの騒音等の影響、事故発生の不安を周辺の住民に与えており、東京都や港区は撤去を要請しています。

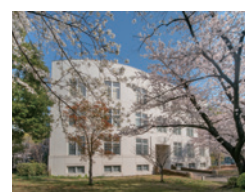
国立新美術館

歩兵第三連隊の兵舎跡地



GHQによる接収が解除された後、〈東京大学生産技術研究所〉による利用を経て、平成19年に日本で5館目の国立美術館としてオープンしました。

■六本木7-22-2



別館として保存されている歩兵第三連隊の兵舎の一部は、関東大震災後に作られた、兵舎建築としては日本初となる、鉄筋コンクリートのモダンな建物！いま見ておもしろそうですね。

政策研究大学院大学

歩兵第三連隊の兵舎跡地



平成17（2005）年に新宿区若松町から移転してきた、国際的な政策研究・教育を行う拠点です。学生の約3分の2が留学生で、国立新美術館に隣接するキャンパスには、世界各国から未来の政策リーダーや研究者が集まっています。

■六本木7-22-1

C 芝公園周辺

芝公園周辺は、もともと増上寺の
広大な敷地が広がっていたところで、
明治になって境内に公園が設けられました。
しかし空襲によって、徳川家の霊廟や
五重塔など、建造物の多くは焼失してしまいました。
今、私たちが見ている東京プリンスホテルは、
戦後に土地が売却されて建てられたものです。

江戸時代



芝のにぎわい ●江戸時代の芝は、増上寺とともに「関東のお伊勢さん」として信仰を集めた芝大神宮（芝神明）への参拝客も多い、江戸でも指折りの盛り場でした。東海道にも近いうえ、当時は海が間近であり、桜や梅なども楽しめる景勝地だったのです。

東京タワー

料亭・紅葉館の跡地

政財界の要人や軍人、文人たちの社交場として知られた、会員制の高級料亭〈紅葉館〉が、空襲を受けて焼失。その跡地へ昭和33（1958）年に建てられた高さ333mの電波塔で、当時は日本で一番高い建造物でした。

■芝公園4-2-8



紅葉館 ●江戸城内の〈紅葉山〉からカエデが移植されたことで紅葉山と呼ばれた地に、明治14（1881）年に開業した純和風の料亭です。当初は会員制の料亭でしたが、上流人士の社交や外国人の接待の場として用いられました。



芝公園

明治6（1873）年に指定された、日本最初の公園の一つ。増上寺の境内に開設され、数多くの伽藍や宝塔、徳川霊廟、東照宮などが名所となり、いくつかの政府や軍の付属機関も置かれました。空襲でほとんどが焼失したのちは、政教分離によって公園と境内とが明確に区分され、現在の姿となりました。



崖になった自然の地形を活かして、園内には、二段に落ちる滝、滝壺（たきつぼ）、溪流、池などの人工の深谷（もみじ谷）が作られました。震災や戦災によって景観が失われていましたが、改修工事を重ね、令和2（2020）年に当時の姿が復元されました。

都心の広く豊かな公園や庭園にも戦争の歴史があるんですね

芝公園には「平和の灯」もありますね（P.188参照）



増上寺

芝公園にある、浄土宗の大寺院。上野の寛永寺と並び徳川家の菩提寺として知られ、徳川将軍15代のうち6人が眠っています。江戸時代の寺領は約25万坪にも及び、近隣の〈大門〉や〈御成門〉などの駅名は、増上寺に由来します。

■芝公園4-7-35

江戸時代



今も残る往時の姿

明治時代には東照宮が増上寺から切り離され、その後も戦災によって五重塔などが失われてしまいました。しかし、今も寺の正面に建つ〈三解脱門（国重要文化財）〉は被災を免れ、往時の姿を留めています。

時代に翻弄されたんですね興味深いです



徳川家霊廟 ●徳川將軍家歴代の墓所で、戦前は本堂（大殿）の左右（南北）へ広がる広大な敷地に廟や石灯籠が建ち並び、日光東照宮にも比肩されるほど荘厳なものでしたが、空襲によってほとんどが焼失しました。
昭和33（1958）年に、遺体や廟の学術調査が行われてから現在の場所へ改葬され、秀忠（2代）、家宣（6代）、家継（7代）、家重（9代）、家慶（12代）、家茂（14代）の6人の将軍と、それぞれの正室と一部の側室の墓があります。



東京プリンスホテル

徳川家霊廟の北廟跡地

昭和39（1964）年、東京オリンピックの開催に合わせて、芝公園に開業したホテル。戦災で消失した徳川家霊廟の北廟の跡地に建てられました。敷地内には、近年改修されて色鮮やかな姿がよみがえった〈有章院（7代將軍家継の法号）霊廟二天門（国重要文化財）〉や、現在の御成門交差点から移築された〈御成門〉が残されています。

■芝公園3-3-1



ザ・プリンスパークタワー東京

徳川家霊廟の南廟跡地

平成17（2005）年、芝公園に開業したホテル。戦災で消失した徳川家霊廟の南廟の跡地に建てられました。ほぼ全域を台徳院（2代將軍秀忠の法号）霊廟が占めていましたが、戦災で大半が焼失。位置を少し移された〈惣門（国重要文化財）〉だけが、敷地内に残されています。

■芝公園4-8-1



敷地のほとんどが焼け野原となりました



キャンパスに残る戦争の傷跡

D 慶應義塾 三田キャンパス

芝の新銭座にあった〈慶應義塾〉を、^{ふくざわゆきち}福澤諭吉が三田の現在地へ移したのは、明治4（1871）年。高台にあって海もよく見えたそうです。



慶應義塾図書館旧館

（塾創立の50周年を記念して作られた建物）

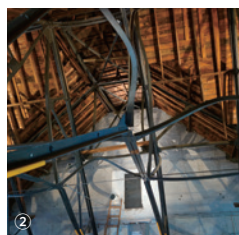
赤煉瓦の壁やアーチ状の窓を持つゴシック式洋風建築で、明治45（1912）年に完成。大学図書館としては、施設も蔵書も画期的な規模でした。昭和20（1945）年5月の空襲で内部を焼失しますが、収蔵書籍の一部は疎開させていて無事でした。

建物の外壁はきれいに修復されているようだけれど、よく見てみると、煉瓦や石などに色や質感が異なるところがあるんですね

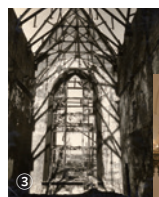


空襲を受けたキャンパス

都内の大学でもっとも大きな空襲の被害を受けたのが、慶應義塾だったといわれます。キャンパス内の樹木も焼けてしまいましたが、燃えにくいイチョウは、火を耐え抜いて何本かが現存しています。



屋根裏 ●書庫の屋根裏が焼け、内部の鉄骨が熱で曲がってしまいました。戦争の痕跡として保存するため、曲がった状態のまま残されています。



大ステンドグラス ●空襲によって失われ、昭和49（1974）年に復元されました。封建社会の日本（古武士）と西洋文明（女神）の出会いが描かれています。



「写」されているのは「真」実なのか？

この写真、図書館まで瓦礫（がれき）が重なっているように見えますよね？でも、同じ日に撮影された他の写真を調べると、図書館の前に瓦礫はありません。瓦礫がずっと続いているよう奥行きを錯覚させる撮り方で、悲惨さを誇張している写真なのです。アメリカを非難するためのプロパガンダへの利用が前提だったのでしょう。



手古奈像 ●万葉集にも詠まれた女性をモチーフとして、北村四海が彫刻した大理石像です。開館時に寄贈されたものですが、空襲で破損し、長く地下倉庫に置かれていました。その後、戦争の痕跡をとどめる形で修復され、平成21（2009）年から階段ホールに設置されています。



平和来／還らざる学友の碑 ●青年像「平和来（朝倉文夫作）」と向き合うように建つ、「還らざる学友の碑」は、慶應義塾出身の戦没者や、在学のまま戦没した者の慰霊碑で、戦没者の名簿が納められています。

福澤諭吉邸跡 ●福澤諭吉は、塾の敷地内に居宅を構えたので、初期の塾生にとって身近な存在でした。しかし、戦時下の建物疎開や空襲によって建物は失われてしまい、現在は基礎の一部が残されています。

